

# 楽しくおいしい給食をめざして

石尾台中学校 成瀬 杏夏

私の住んでいる地域では、一年程前に給食の牛乳がビンからパックに変わりました。調べてみたら、洗浄や殺菌にコストがかかったり、重さや割れた時の危険性を考えたりしての事だと知りました。ですが私はビンの牛乳の方が好きでした。細いストローで飲む事に違和感があったり、大好きだった粉のミルクが液体になったりして、美味しくなくなると感じるからです。でも、一番の理由は、クラスにお誕生日の子がいた日にだけ行く、「牛乳乾杯」というイベントがなくなってしまったからです。給食の時間に、クラスみんなでその子のお誕生日を祝うとても楽しいイベントでした。

人見知りで、人に話しかけることが苦手だった私にとって、それまで会話をしたことのない子に話しかけるキツカケになったり、みんなの会話に入るチャンスになったりもしました。給食は、そんな「楽しい」時間を教えてくれました。一般的に、一人でさびしく食事をするよりも、みんな楽しく食べる方がおいしく感じます。私は、小学校に入学したばかりの頃、「給食ってどんな感じなのかな。」「出されたものは全部食べなきゃいけないのかな。」など、漠然とした不安がたくさんありました。でも、みんなと会話をしながら給食を食べているうちに、そんな不安はなくなり、給食は楽しく、おいしいものなんだ、と思えるようになりました。今でも、給食中の会話などがキツカケになり、絆がより深まったり、新たな友情が生まれたりすることもあります。

しかし現在は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、給食の「楽しい」時間が奪われてしまっています。私たちは以前の楽しかった頃の給食を知っているけれど、今の小学校一・二年生は



それを知らないと考えたと、給食嫌いの子が増えてしまいそうで心配です。

この困難な時期を乗り越え、また以前のような日常を取り戻すことができた日には、これまで以上にもっと「楽しくおいしい」給食の時間を作っていきたいです。たとえば、この苦しい状況がまだまだ長く続くとしても、「楽しくおいしい」給食のあり方を、みんなで作りに出していきたいと思えます。

